

納戸の夢

高橋悠治
Yûji Takahashi

bouzouki tuning

前奏 <Monteverdi: L'Orfeo - Toccata

bouzouki

piano

fuori di fase, ad un ritmo indipendente

プロローグ <L'Orfeo - Prologo

voice

Traumes Wirren < Schumann

piano

ritornello: l'organo del crepuscolo <Schumann: Traumes Wirren

ここはなんど いえのおくのやみ のうるおい もうつかわれること のない 調度や
fuori di fase, senza tempo

そでを通すことのないきもの についた ちいさなたましい の あそぶところ

ritornello

ふ る い ゆ め

come sopra

とぎれたゆめが ゆききする

ritornello

なんどのおくに かずしれぬひきだしのついた くすりだんすが

いきをひそめた生きもののように 据えられている

ritornello

そのひきだしのいくつかは ひきだすときに かなしい オルガンの

おと_____がする

ritornello

その たそがれ のオルガンのね_____に さそわれて わすれられたにんぎょう_____や

ふきガラスの瓶 がながれよる ゆめ_____の きし べ

ritornello

Traumes Wirren

ritornello

ここはなんど ここはな ー んど

1

ritornello <vi ricorda, Acto II

fuori di fase

<Ahi caso acerbo, Acto II

わたしが生まれたのは ひとの ゆめ の なか ほるびを生きるわたし には からだがな い

fuori di fase, ad un ritmo indipendente

8vb *8vb*

5

ひとのゆめにしのびこんではそこをすみかに生きてきた

ritornello

And. gmb

あなたのゆめにまよいこんだのはそこで見つけた

come sopra

And. gmb

うみのいるのガラス瓶のせいものがたりの予感にしずんだ

And. gmb

青いいるにひかれて気がつくわたしはガラスの瓶になっていた

And. gmb

ritornello

Piano accompaniment for the first ritornello section, consisting of two staves (treble and bass clef). The music is in a minor key and features a melodic line in the treble clef and a supporting bass line in the bass clef.

Vocal line and piano accompaniment for the first vocal phrase. The vocal line is in the treble clef with lyrics underneath. The piano accompaniment is in the bass clef. The lyrics are: あなたのゆめをすみかに生きるために わたしは瓶を脱いでねこになった

Leg. 8^{vb}

ritornello

Piano accompaniment for the second ritornello section, consisting of two staves (treble and bass clef). The music is in a minor key and features a melodic line in the treble clef and a supporting bass line in the bass clef.

<Ahi vista troppo dolce, Acto IV

Vocal line and piano accompaniment for the second vocal phrase. The vocal line is in the treble clef with lyrics underneath. The piano accompaniment is in the bass clef. The lyrics are: うみのいろをしたひとみのねこに あなたのゆめがのぞんだ

8^{vb} Leg.

とおりに *ritornello*

8^{vb}-----*

あなたのゆめ——は 入れ子のゆめ——め ゆめから さめても

8^{vb}-----

parlando

まだそれはゆめのつづき 納戸のほの暗い中 わたしは、薬筆筒の上のっていた

8^{vb}-----

○ 朝子の日記 その1

[朗読]

< M \acute{e} lisande: Mes long cheveux descendent...

やっと薬筆筒が
わたしの実家から届いた。



ながらくこの病を飼い慣らしてきたという感慨とひき替えに、
いずれ迫ってくる死期を意識するようになった。そんな時、
なぜかこの薬筆筒のことがしきりに思い出された。



実家の納戸のほのぐらい場所。思えば、わたしが息子の^{ゆう}遊^うく^らいの年、
いつもそこがわたしの遊び場だった。



用済みになった、
たくさんの抽斗で仕切られた薬筆筒に、



いつもわたしは大切なものをしまっておいた。
ところが、しばらくすると、どこに何を入れたか忘れてしまう。




それでも抽斗には目印を付けなくて、
目当てのものとは違うものが入っていたりすると、
それを抽斗の魔法のせいにした。



空っぽのときは、抽斗が、どこかよその世界につながっていて、
あれはそちらに行ってしまったのだと合点していた。

cantando *parlando* *cantando* *parlando*



まだおさない遊^うを置いて、この世から身を隠さなければならないのなら、せめてあの抽斗の奥と

つながっている世界に行きたいと願った。
そこなら、幼い遊にもいずれ見つけてもらえそうな気がして。

<Ei dorme, Acto III

wたしはねこになつて

piano

しばらく 納戸でくらしただれも入つてこない 広い納戸に 莫産が敷かれ 隅に 被いのかかった鏡台がある

parlando

あなたはいつもあさはやくに納戸の戸を開けに来て夕べにそれを閉めに来た

けれどそこにあなたがしずかに納戸の戸を開けてしばらく奥の薬箱を見つめると入ってくることはない

裏庭に面した離れに帰る そればかりか 納戸に寝そべる わたしには

The first system of the musical score consists of a vocal line and piano accompaniment. The vocal line is written in a treble clef with a key signature of one flat (B-flat). The lyrics are: 裏庭に面した離れに帰る そればかりか 納戸に寝そべる わたしには. The piano accompaniment is written in a grand staff (treble and bass clefs) with a key signature of one flat. It features a melodic line in the right hand and a harmonic line in the left hand, with some arpeggiated figures.

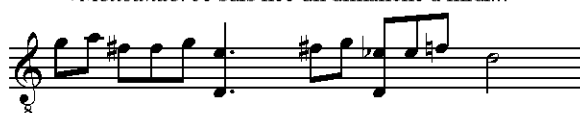
まるで気づかない ふうで わたしが透けて 見えるのかしらと いぶかしく思ったものだ

parlando

The second system of the musical score continues the vocal line and piano accompaniment. The lyrics are: まるで気づかない ふうで わたしが透けて 見えるのかしらと いぶかしく思ったものだ. The tempo/mood marking *parlando* is placed above the vocal line. The piano accompaniment continues with a similar texture, ending with a double bar line and repeat signs.

○ 朝子の日記 その2

< Mélisande: Je suis née un dimanche à midi... >

bouzouki 

[朗読]
わたしは明るい陽のさす離れの病室から、
今の家の納戸の間に移してもらった。

病状がもはや回復の見込みはないことに加えて、それを機に、



息子に病がうつってはならないから、
わたしを隔離したほうがよいと強く説いたのだった。

その際に、
今生のわがままと、
懐かしい思い出の薬箆を、
ここに運んでもらえまいかと頼んだ。



薬箆が納戸に運び込まれてから、
わたしは少女の頃に戻っていたのだろう。



抽斗のいくつかは、引き出すときにオルガンのような音をたてた。
どの抽斗が音を出すかわからない。
ここかな、それともこっちなとあてずっぽうに引き出してみる。



そんなたわいもないことをしているうちに、ふといいことを思いついた。



このひきだしの ひとつひとつに まいにちひとつのおもいでを 入れておこう



おもいでを 入れる ひきだしが なくなるのと わたしの いのちが 尽きると どちらが さきか

< Signor, quell'infelice, Acto IV

ある日 ついてこいとも言われな いの に 筆 筒のうえからほとりと 下りて

納 戸を出て あなたのあとに ついていく

うらにわまでやっ てくると ちぐさのみだれるに わ の たたずまい

朱 や 黄 やあおのえのぐで ぼつぼつと 付けたような はなばなが くさのみどりにまじる

parlando // *cantando*

納戸から抜けてきたわたしには // くだれるような まばゆいひかりのつぶが

いきぐるしいほど // はじめてあなたに声をかけられたのは
そんな時だった

「おいで」

「さあ おいで」

「さあ こっちへおいで」

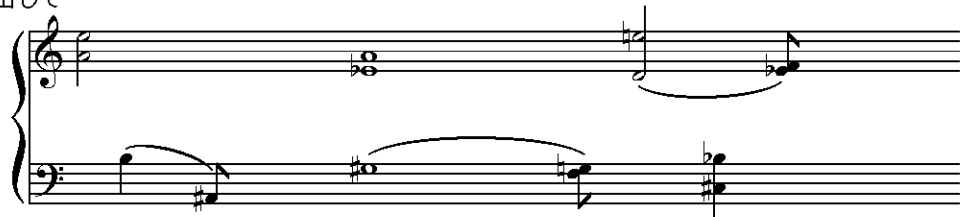
「みかけない顔だね
どこからやってきたの？
おや 確か どこかで見たような その瞳の色」



そうやってわたしに見入るので
ついわたしも あなたの目を
無防備にのぞき込んでしまう
それでもわたしは
身体を預けることをこぼんで
あなたの手をすりと抜ける



けれど
あなたが知らん顔をきめている時には
つい甘えたような声を出して
あなたに忍び寄る



やがて見えない糸にむすばれて
身を隠すことがつらくなる
あなたが見えなくなると
わたしはしきりに切なく鳴いた

すると あなたは
「あさ あさ」とわたしを呼んだ
なにか恥じらうように ためらうように
口ごもりながら 小さくわたしを呼んだ



parlando *cantando*

け れ ど も や が て そ の 名 に わ た し が な じ む こ ろ に は 「 あ さ あ さ あ さ あ さ 」 と

poco *p*

う た う よ う に わ た し を 呼 ん だ

poco *p*

○ 朝子の日記 その3

茶筍筍が届いた時に、抽斗の一つから、新聞紙で藪のようにくるまれた青い吹き硝子の壺が出てきた。わたしはその壺を手にして、懐かしさでいっぱいになった。

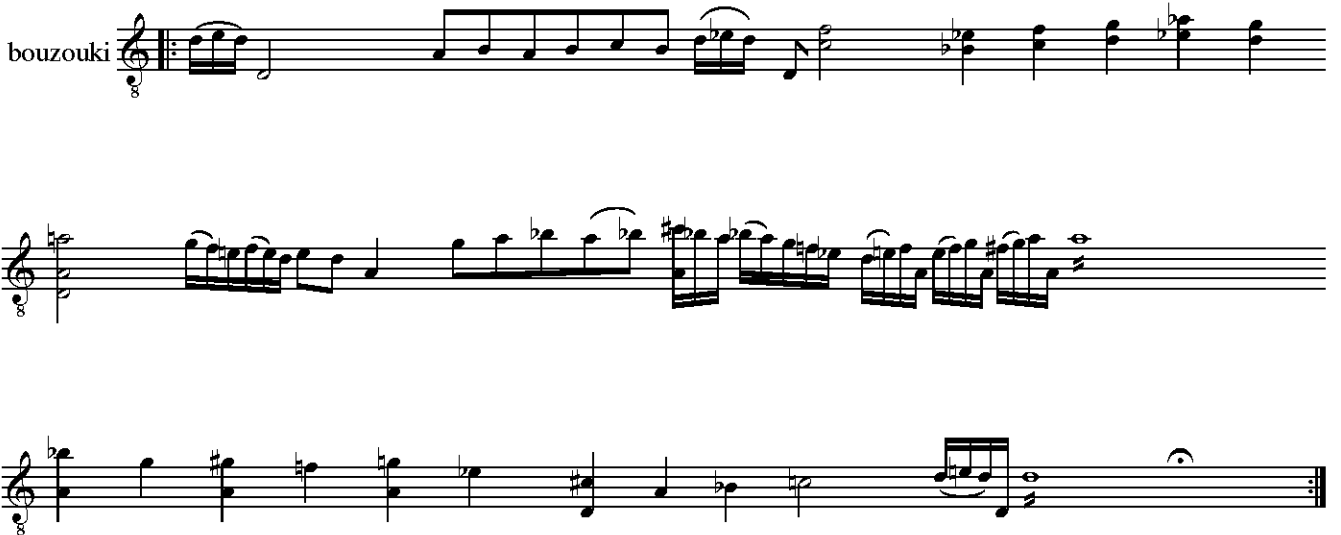
その頃、わたしには大切にしていたお気に入りの人形があった。人形と言っても、目鼻もなく、衣服も身につけていないので、男か女だかもわからない、かたい木でできた人形。頭や手足が動くようになっていて、動かすと、ぎしぎしと音がする。時にはぎいぎいと、人形が話しているように聞こえるので、こちらが話しかけてやると、返事をしたがって、わたしに自分の頭や手足を動かしてくれるように催促するのだった。

ある日、大切に抽斗のひとつに仕舞っておいたその人形がなくなっていた。いや正確には、そのかわりに、この青い吹き硝子の壺がでてきたのだ。ふだんなら、いつものことと承知するところが、唯一のおしゃべりの相手だった人形だけに、この仕打ちはこたえた。

今思えば、それは家のお祭りの時に使われる厄払いの形代（かたしろ）だった。親は恐らく、そのようなものをおもちゃにしているのを好ましく思わなかったのだろう。木の人形のかわりにと、女の子らしい飾り人形ではなく、青い吹き硝子の壺をわたしのために選んだのは、わたしが、いかにも女の子が遊びそうなものには見向きもしないことを、親がよく承知していたからだろう。

[朗読の間に2回反復]

bouzouki



<Atto III, Scorta da te

「どうしてこんなにひるいやしきに ひとりで 住ん でいるの」

piano

「これはぼくのゆめ のなか ゆめの そでは もう やしきはくさはらに

なっている ひとりで ここにいるのは この やしきをまもるため」

「こんどはぼくが尋ねる番だ
どうしてぼくの夢の中にきみがいるの？」

parlando

「ここはわたしのすみか それは きっとあなたが決めたことよ」 「そんな覚えはないけれど。」

< Ecco l'atra palude

それにしても
きみの瞳の色は 確かにどこかで見たような気がするんだが・・・」

< Lasciate ogni speranza voi ch'entrate

あなたの目 の なか に わたしがうつ ている ね この「あさ」 が

うつ ている

○ 朝子の日記 その4

< Pelléas, Acte V



わたしの病をうつしてはならないと、
納戸に入ってからは、息子の游の顔を見ることはほとんどなかった。

ところがその日、目が覚めると游がいた。游の他には人がついていないから、



こっそり入ってきたのだろう。

「ゆう、いけませんよ。」とはいったものの、
やっぱり少しでも長く游の顔をみていたかった。



それから游が薬筆筒のそばに行き、抽斗を開けようとするので、思わず「待って」とわたしは制した。

少し無理をして床から起きあがると、
「今はまだ何も入ってないのよ。おかあさんがいなくなったら、この抽斗のどれかに隠れているからね。」
すると、隠れん坊をと思ったのか、ゆうが目をつぶったので、
「おかあさんはまだ隠れないのよ」と言って、青い色の壘を持たせた。
わたしには何もあげるものがなかった。
「これはこの抽斗の中から出てきたのよ。
おかあさんがまだ小さいときに、この壘とかくれんぼしていたの。
なかなか見つからなくてやっとこの前、ここの隅の抽斗の中から見つけたのよ。」

それから、ゆうと二人鏡台の前に並んで座った。



<Atto II, Pastor, lasciate il canto

はなれであなたにやさしく

piano *fuori di fase*

あいふされるようになってもわたしはねこのまま その不満をあなたに投げると

parlando

cantando <The Last Rose of Summer> *parlando*

途方にくれたようににわのちぐさに目をさまよわせるばかり

その日はもうこらえられなくて、あなたに質した。
「『あさ』という名前をどうしてわたしに付けたの？」

「きっとそうよ。
あの納戸には おかあさまのものばかり。
着物も箆笥も行李も鏡台もみんなそう。」

はじめてあなたを見たとき あなたはまるで何も見なかったようにふるまった

parlando

そのときわたしは、あなたの強い視線をいたいほど受け止めていたのよ。

それははっきり言える。

parlando

わたしの目のいる そう あなたはいつもどこかで見たことがある

cantando *parlando*

目の色だと とぼけていたけれど ほんとは もうあの時に気づいていたはずよ。

それが青い吹きガラスの瓶のいるであることに

fuori di fase, ad un ritmo indipendente

[硝子の壇の口から] -----

そう言うと、わたしの身体が、わたしの意志を離れて猫を脱ぎ、吹き硝子の青い壇にかわっていく。 「この瓶も

お かあ さまの か た み で は な い の？ 「違う。ぼくは壘を愛してるんじゃない。あさを愛している。」

[壘の口から] -----|

「ね こ の あ さ を？」 「違う。ぼくは猫を愛しているんじゃない。あさを愛している。」

8^{vb}-----|

[壘の口から] -----|

parlando *cantando*

あ さ は ね こ よ 「いや、違う。あさは人、わたしの恋する人」青い吹き硝子の瓶のわたしは、ゆるゆるとあなたのでのひらの上で

8^{vb}-----|

cantando

ふたたび猫にかわっている。

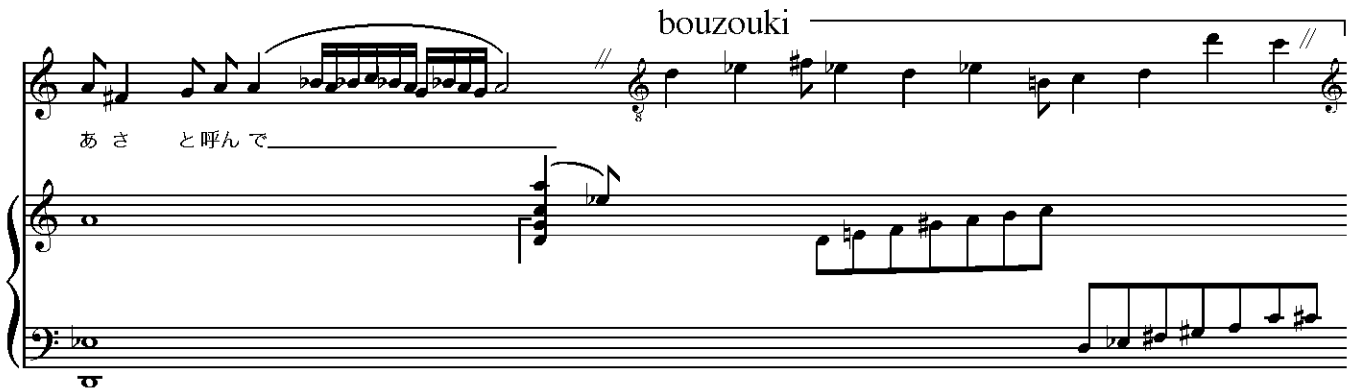
< Possente spirito, Acto III

piano




さあ もういちど いまのことはを継いで

bouzouki

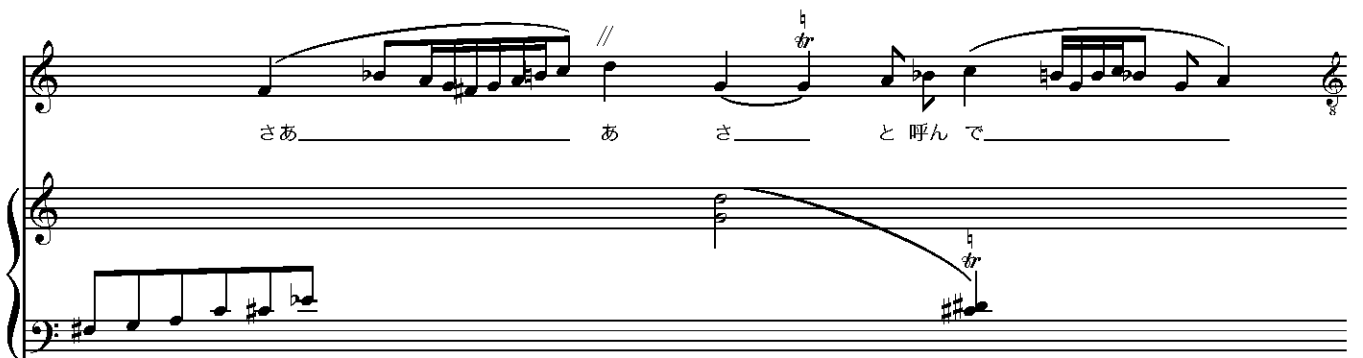


あさ と呼んで

parlando bouzouki



わたしを納戸で見つけたときかあかあさまの身代わりであることが うすうすわかっていたわ



さあ あ さ と呼んで

bouzouki parlando

あなたがわたしをおかあさまとちがうと言うのならさあ—

あさ— と 呼— ん で—

parlando

わたしが 猫のまま なら あなたの 恋人には なれない さあ— あ

bouzouki ritornello

さ— と 呼— ん で—

ad un ritmo indipendente

First system of musical notation, including a vocal line and piano accompaniment.

Second system of musical notation with Japanese lyrics: わたしはどんなかお？ あなたのかわいがっているねこのかお？ わたしはどんなかお？

Third system of musical notation with Japanese lyrics: あなたが幼い頃に見つめた おかあさまのかお？ わたしはどんなかお？

Fourth system of musical notation with Japanese lyrics: あなたをまっすぐにあいしているおんなのかお？ さあ——あさと呼んで

ad un ritmo indipendente

Piano accompaniment notation for the final system, consisting of six chords.

bouzouki _____
ritornello

The first system of the score consists of three staves. The top staff is a single treble clef line for the bouzouki, showing a melodic line with various intervals and accidentals. The bottom two staves are a grand staff for piano accompaniment, with a treble clef on top and a bass clef on the bottom. The piano part features a steady bass line with chords and some melodic movement in the right hand.

The second system features a vocal line on the top staff with lyrics in Japanese. The lyrics are: "そうでなければ わたしはね この まま". The piano accompaniment continues on the bottom two staves, providing harmonic support for the vocal melody.

The third system begins with a bouzouki section on the top staff, indicated by the label "bouzouki" above the staff. The lyrics for this section are: "あなたのゆ め に 飼われた ねこ _____ の まま". The piano accompaniment is on the bottom two staves.

The fourth system also begins with a bouzouki section on the top staff, labeled "bouzouki". The lyrics are: "あなたをつ よ く 抱きしめる う で が ほしい". The piano accompaniment is on the bottom two staves.

あなたのキスを かえす くちびるが ほしい

parlando

あなたを迎えるからだがほしい

8

< Tu se' morta, Acto II

わたしたちは 夢のもつれを生きていた

あの日 から わたしたちは 納戸に閉じこもった ぎり 愛し合うこと しか しなかった

わたしが猫を脱いで
あなたの恋人になったしるしを
おかあさまの身代わりでないというしるしを
あなたの身体に見つけたかった



あなたにしても それは同じ
わたしを抱きながら あさと呼ぶとき
おかあさまという毒で口を濡らしはしなかったかと



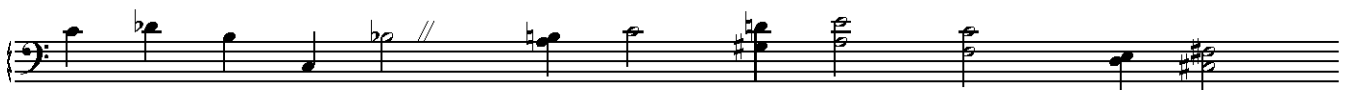
わたし たちは お互いの 疑いを 拭うために 愛し合っていたのかも知れない



わたし たちは 夢の もつれ を 生きて いた



からだを合わせるたびに
あなたの夢がほころんでいくのがわかった
強くて若やいだあなたの身体が
木の軋むような音を立て始めた



き いぎ いぎ い と わたしとその音をなぞると あなたの身体はいっそうはげしく ぎ いぎ いぎ い と

あえぐように鳴った ああ— それが わたしたちの ゆめ の きしむおと その音があなたには聞こえない *parlando*

cantando わたしの目には あな た が 木 の 人形に 見えて いる ことを *parlando* あなたは知らない

< sinfonia, Acto IV

bouzouki



その日 愛し合うのに疲れたわたしたちは
 納戸の戸を開けて 裏庭の光の尾を引き込んだ



ふとその光と風にさそわれて 鏡台の被いがゆれ
 どちらともなく それに目を向けた



< Rosa del ciel, Acto I

piano

Musical notation for piano accompaniment of 'Rosa del ciel, Acto I'. It consists of three staves: a treble clef staff for the melody and two bass clef staves for the piano accompaniment. The key signature is one sharp.

わたしは 人になってから 自分の顔を見たことがない あなたはわたしを どんな顔に

仕立てたの だろう あなた が 時に 木 の 人形 に みえてしまうのは

Musical notation for piano accompaniment of the second part of 'Rosa del ciel, Acto I'. It consists of three staves: a treble clef staff for the melody and two bass clef staves for the piano accompaniment. The key signature is one sharp.

目のまよいだろうか そんなことを思いながら 鏡の前にあなたを連れて行き わたしは被いの布を払った

< Ahi vista troppo dolce, Acto IV

かがみの なかに わたしはいなかった あなたがひとり

ぼつんと立って いた いや それは今の あなたではない まだ 幼い この あなた

< Mes long cheveux

bouzouki

その後ろで
 幾つあるとも知れない抽斗のすべてが
 むやみに 引き出されたまま
 薬筆筍が 口を開けて事切れた生きもののよう
 に 無惨なすがたをさらしていた